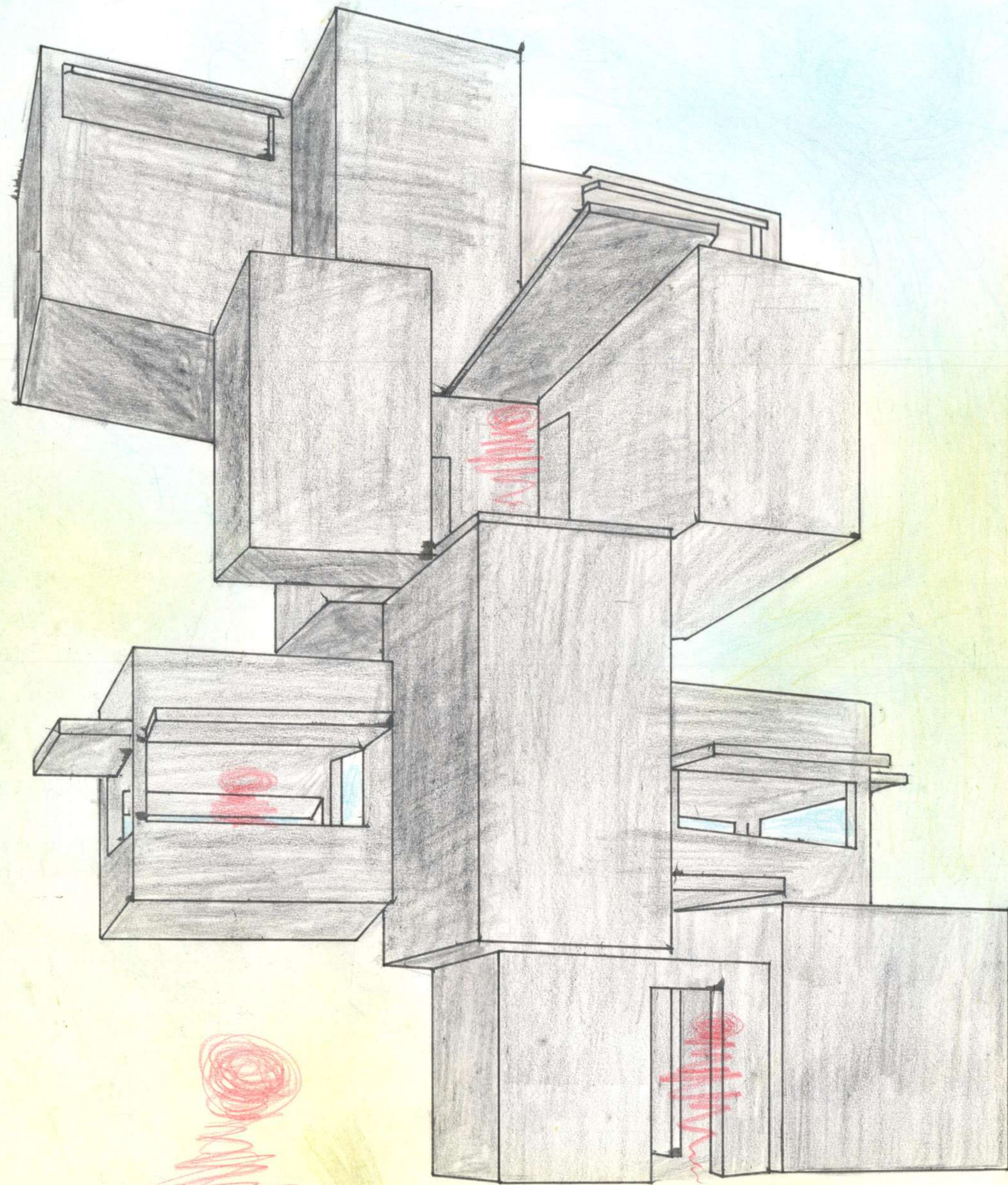


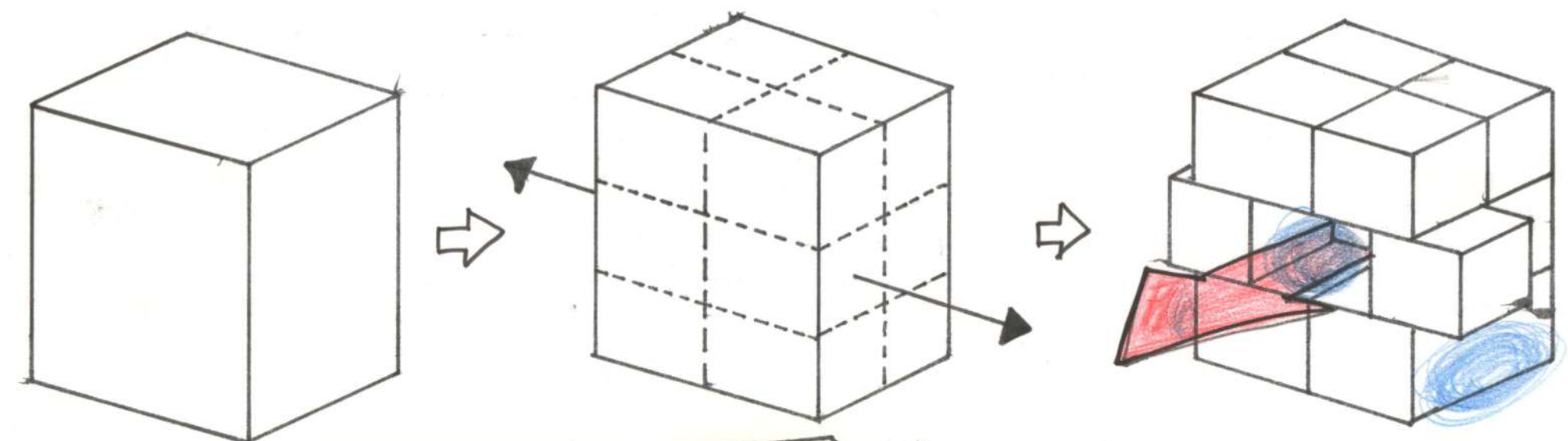
文節の家 | つながる孤立



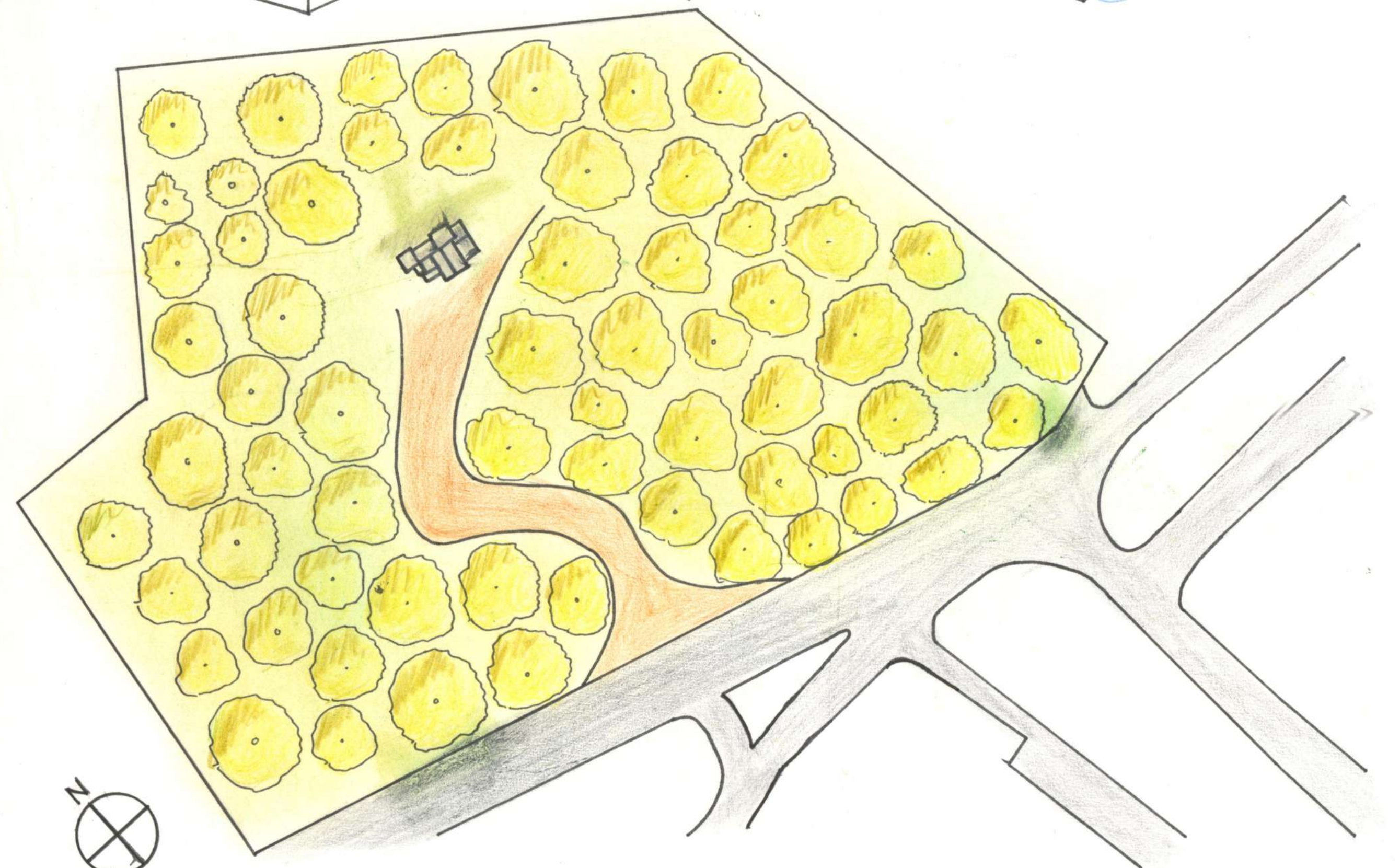
△ 外観スケッチ

・設計主旨

- ① 内向性について
木に囲まれた敷地で、外部からの視線を遮断し、内向的に暮らすことの心地よさと豊かさを提案する。
- ② 空間構性："キューブ"と"スリット"
この住まいは、生活の行為を用途ごとに文節する立方体 = キューブによって構性され、1つ1つの空間に明確な意味を与える。キューブ同士は、立方体の移動空間 = スリットでゆるやかにつながる。
- ③ スリットの役割
スリットは、生活の行為を持たないただの通路だが、その"意味のなさ"がキューブごとの空間体験を際立たせ、暮らしに緩急と余白を与えている。
- ④ キューブをずらすことによる開放性
キューブの配置にズレを持たせることで、内部に視線の抜けや自然光が入り込み、閉じた構成の中にもわずかな開放感が生まれる。また、新たな空間を生むことができる。



分割 + ずらす
||
空間が生まれる



△ 配置図 S = 1 / 800

